

基礎薬学 実習

[実習] 第3学年 前期 必修 2単位

《担当者名》講師/土田 史郎
教授/中川 宏治 教授/室本 竜太 教授/前田 直良
准教授/大澤 宣明 助教/進藤 つぐみ

【概要】

微生物取り扱いの基本的操作を理解し、細菌の培養、同定、薬剤耐性ならびに感染に対する重要な生体内防御因子である抗体や補体に関する実験を行う。本実習は、1)細菌の培養、観察などの取り扱い方、2)薬剤耐性の伝達と検出、3)血清診断法の原理と実際、4)滅菌と消毒の意義、を実験によって修得することを目的とする。

また、生化学関連の講義で学んだ知識を基に、生体成分の定性反応、定量的解析を行なう。特に生命に対し基本的な役割を持つ糖質、タンパク質、核酸等の各成分に対する知識と理解を深めるとともに、近年急速に進歩している遺伝子工学の基礎実験を行い、遺伝子関連実験の基本的手法を修得することを目的とする。

【学修目標】

微生物の取り扱い、免疫学的手法などを学び、微生物学、微生物化学、免疫学の講義の内容を実際の実験で確認し、知識の裏付けができる。

生体成分の定性反応、定量法、精製法の原理や操作法を理解すると共に、糖質、タンパク質、核酸の構造や性質について説明できる。

実験の目的、実験器具と操作の意味を理解し、実験結果に対して論理的考察ができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	Aグループ 生化学 酵素活性の測定	酵素の性質について理解すると共に、トリプシンは膵液に含まれるプロテアーゼであり、ペプチド結合の加水分解を触媒する消化酵素であることを説明できる。 カゼインを基質としてトリプシンを一定時間反応させた後、タンパク質分解の程度を測定できる。 関連するモデル・コア・カリキュラム C-6-4 1)、2)、3)、4)	中川 宏治 土田 史郎 進藤 つぐみ
	Bグループ 免疫微生物学 基本操作(1) ELISA(1)	細菌培養用培地を調製し、無菌検定ができる。消毒・滅菌法や無菌操作などの微生物の一般的な取り扱いができる。 平板培地、斜面培地および液体培地への菌移植ができる。 ELISAによってヒツジ赤血球と抗ヒツジ赤血球抗体との反応を検出できる。 関連するモデル・コア・カリキュラム C-6-3-1)、2)-(10) C-2-7-3)-(3)	室本 竜太 前田 直良 大澤 宣明
	Cグループ 課題学習	生化学及び免疫微生物学の関する種々のテーマについての調査・レポート作成を通じて、各テーマについて理解し、説明することができる。 関連するモデル・コア・カリキュラム C6	中川 宏治 室本 竜太 前田 直良 大澤 宣明 土田 史郎 進藤 つぐみ
2	Aグループ 生化学SNP解析(1)	PCR法の原理やその有用性、応用範囲について説明できる。ヒト細胞からDNAを抽出し、特定のDNA領域をPCR法を用いて増幅できる。 関連するモデル・コア・カリキュラム C-6-2	中川 宏治 土田 史郎 進藤 つぐみ
	Bグループ 免疫微生物学 基本操作(2)	無菌検定の結果を評価できる。 平板培地に形成された細菌集落の形態ならびに液体培地での増殖を観察し、それらの特徴を説明できる。 グラム染色および芽胞染色及び抗酸菌染色ができる。 染色標本を顕微鏡下で観察し、それらの特徴を説明	室本 竜太 前田 直良 大澤 宣明

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		できる。 細菌細胞壁の構造とグラム染色性の相関について調べ、発表できる。【PBL】 関連するモデル・コア・カリキュラム C-6-3-1), 2)-(10)	
	Cグループ 課題学習	1回目と同じ	中川 宏治 室本 竜太 前田 直良 大澤 宣明 土田 史郎 進藤 つぐみ
3	Aグループ 生化学 SNP解析(2)	増幅したDNA断片をアガロースゲル電気泳動法で検出できる。 関連するモデル・コア・カリキュラム C-6-2	中川 宏治 土田 史郎 進藤 つぐみ
	Bグループ 免疫微生物学 ELISA(2)	ELISAによってヒツジ赤血球と抗ヒツジ赤血球抗体との反応を検出できる。 関連するモデル・コア・カリキュラム C-2-7-3)-(3)	室本 竜太 前田 直良 大澤 宣明
	Cグループ 課題学習	1回目と同じ	中川 宏治 室本 竜太 前田 直良 大澤 宣明 土田 史郎 進藤 つぐみ
4 5 6	Aグループ 免疫微生物学 Bグループ 課題学習 Cグループ 生化学	1~3回目と同じ	中川 宏治 室本 竜太 前田 直良 大澤 宣明 土田 史郎 進藤 つぐみ
7 8 9	Aグループ 課題学習 Bグループ 生化学 Cグループ 免疫微生物学	1~3回目と同じ	中川 宏治 室本 竜太 前田 直良 大澤 宣明 土田 史郎 進藤 つぐみ
10	実習のまとめ	基礎薬学 実習に関する実習項目についてまとめたレポートを提出する。	中川 宏治 室本 竜太 前田 直良 大澤 宣明 土田 史郎 進藤 つぐみ

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート 50%、実習(学習)態度 50% で評価する。レポートは添削して返却するので、各自確認すること。

【教科書】

「基礎薬学 実習書」

【参考書】

「コンパス生化学」

「シンプル微生物学」 第6版 小熊恵二、堀田博、若宮伸隆 編 南江堂

「薬系免疫学」 第4版 植田正、前仲勝美 編 南江堂

【学修の準備】

当日の実習内容をテキストを用いて予習し、あらかじめ要領や注意点等を把握しておくこと。

【関連するモデル・コア・カリキュラム】

C-2-7 医療現場における分析法 -3)-(3)

C-6-2 生命情報を担う遺伝子 -1)

C-6-3 微生物の分類、構造、生活環 -1), 2)-(10)

C-6-4 生命活動を担うタンパク質 -1), 2)-(2)

C-7-9 リンパ系と免疫 2)-(5), (6)

【薬学部ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

2. 有効で安全な薬物療法の実践、ならびに人々の健康な生活に寄与するために必要な、基礎から応用までの薬学的知識を修得している。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している